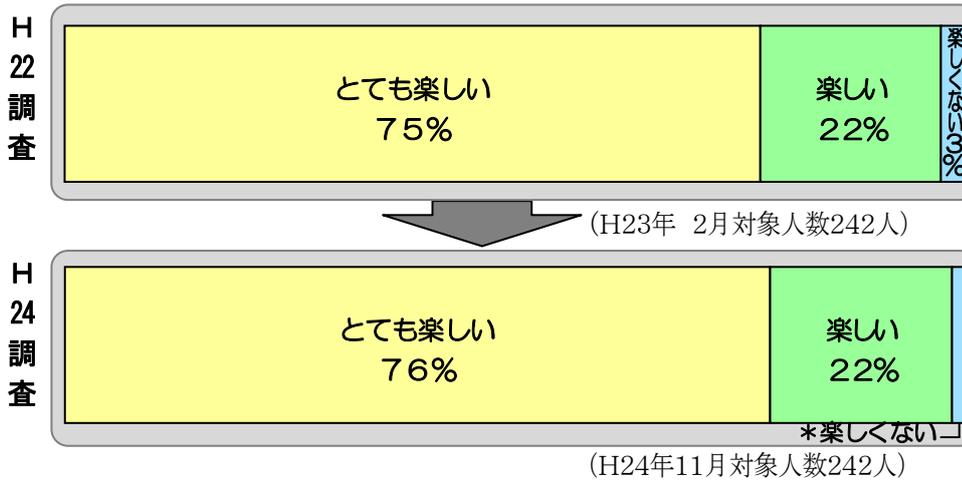


IV 研究の成果と今後の課題

1 外国語活動に対する子どもの意識調査

(1) 設問1「ゲームをしたりアクティビティをしたりする外国語活動は(H22は、英語科の学習)楽しいかについて」



設問1は、「英語好きな子どもを育てる」という「かのかや英語大好き事業」の目標に関わる設問である。H22とH24では、ほとんど変化がなかったが、「楽しくない」が着実に減り、「楽しくない」が0の学年も多くなっている。(1年, 2年, 4年) 今後, さらに外国語活動の学習を楽しめる子どもを育成していく必要がある。

(2) 設問2「楽しいと感じる活動について」

年	順	楽しいと感じる活動
低学年	1	ゲーム活動
	2	英語の歌を歌う活動
	3	ALTの話聞く活動
中学年	1	ゲーム活動
	2	英語の歌を歌う活動
	3	外国の話聞く活動
高学年	1	ゲーム活動
	2	外国のことを知る活動
	3	友達やALTと交流する活動

設問2は, 子どもたちが感じている楽しさの内容を問う設問である。この結果を一見するとゲームの楽しさを特に感じているように見られる。しかし, 子どもたちが学習において活動しているゲームとは, この研究以前のゲームと, かなり内容が異なっている。教師が授業デザインにおいて, 外国の言語や文化の面白さに触れられるようなゲームや外国の言語や文化への気付きを生かしたコミュニケーション活動を考え, 子どもたちはそれらをゲームとして体験している。そのため, 2・3番目との関係の中に見られるように, 「活動の楽しさ」に加えて, 外国の言語や文化に触れる驚きや喜び, 本当に伝えたいことを伝え合うことの楽しさを感じ始めていると考えられる。そのことは, 子どもの振り返りカードの中に, より具体的に表れている。

2 授業で用いた振り返りカードの分析

本研究では, アクティビティ間に中間評価を取り入れ, 子どもがより意欲的に活動できるような工夫をすること, 統一した振り返りカードを用いて, 子どもへのフィードバックを行うことなどに取り組んできた。そこで, 次のような子どもの振り返りが見られた。

今日の英語は、「スペイン」, 「フランス」, 「中国」, 「韓国」の数の数え方が聞けて, にているところもあって, とても楽しかったです。ゲームもとても楽しかったので, これからも一生けん命がんばりたいです。

子どもの振り返り
4年生

外国語活動 振り返りカード

子どもの振り返り

6年生

1 今日の授業は、楽しく活動することができた。

2 今日の授業で使った英語の言い方は、

3 今日の授業で、友達や先生と一緒に

4 今日の授業の感想を書こう。 ① 自分したこと、頑張っている友達、困っていることなど自由に書いてみよう。

今日は、トラバン先生に、分からない材料も英語で教えてもらったので、次にやるランナクイズが楽しみです。

◇ 気付いたことや聞いたことがあったら書こう。
日本でも英語でも使われている言葉がある。

—先生から—
積極的にランナクイズを完成させたのは、ね。

トラバン先生や友達に分からないところなどを質問し、いろいろな言い方が言えるようになって、次のクイズ大会で、わたしが考えたクイズがみんなは分かるのか早くしたいので楽しみです。

今日の授業の感想を書こう。 ① 自分したこと、頑張っている友達、困っていることなど自由に書いてみよう。

今日は、トラバン先生に、分からない材料も英語で教えてもらったので、次にやるランナクイズが楽しみです。

◇ 気付いたことや聞いたことがあったら書こう。
日本でも英語でも使われている言葉がある。

—先生から—
積極的にランナクイズを完成させたのは、ね。

今日の授業の感想を書こう。 ① 自分したこと、頑張っている友達、困っていることなど自由に書いてみよう。

トラバン先生との最後の授業だったので積極的に交流することができて良かったです。

◇ 気付いたことや聞いたことがあったら書こう。
身のまわりの言葉でも日本語から英語になっているのが多いので、ね。

—先生から—
よくね、おもしろい、英語を使っているね。

これらの振り返りカードに見られるように、子どもたちは単なるアクティビティの楽しさではなく、外国語活動が目指す楽しさ、すなわち、英語の面白さに触れることや英語を用いて友達や教師とコミュニケーションをもつことの楽しさを味わえるようになってきていると考える。

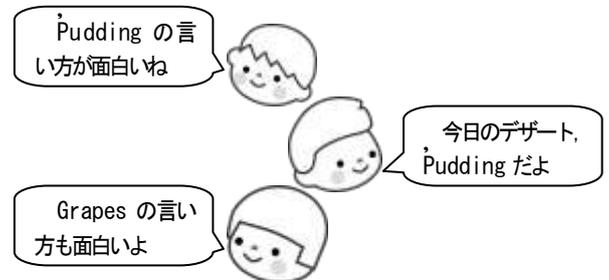
3 指導者による学習中の子どもの観察の分析

本年度の実践を通して、次のような子どもの姿を見ることができた。

単元名「今日は何曜日？」第3学年	単元名「元気がないね、どうしたの？」第5学年
曜日の表現には皆「day」が付いていることに気付いた子どもが、その気付きを全体に伝えた。その子が伝えたことによって、全体がその子どもの発見に驚き、言葉の面白さにふれる喜びを味わうことができた。同時に、発見したことを伝え合うことの意味や楽しさも感じることもできた。	日本人はかぜや熱の場合、病院で受診するが、「外国の人々はかぜや熱ぐらいでは、すぐには病院には行かず、家で安静に過ごして対処する。」というALTの話聞く活動を通して、生活の違いに驚く。そこから、「どんな病気・症状のときに受診するのか」という問いを生み出し、ALTにいろいろと質問する活動が積極的に行われた。

さらに、授業の後面白かった英語表現を発話したり、日常会話の中で用いたりする姿も見られるようになった。

このような子どもの姿は、「言語や文化に関する気付き」という視点から3つの柱を相互作用的に取り入れた授業を展開していくことによって、驚きや発見のある外国語活動の授業が展開できるだけでなく、子どもが自ら積極的に学習に取り組むようになることを表していると考えられる。



4 成果と課題

以上のようなことから、本研究の成果と課題を次のようにまとめる。

(1) 研究の成果

これまでの研究と実践から、3つの柱は、個別の活動によって果たすべきものではないことが明らかになった。次のように、相互に関連するように仕組みながら達成していくことが望ましいと考える。

- 外国の言語や文化について調べる学習ではなく、外国語に慣れ親しむ活動や外国語を用いて自分の思いを伝え合う活動の体験を通して、言語や文化について理解を深めるようにする。(言語や文化についての体験的な理解)
- 外国の言語や文化に触れる活動や外国の言語等を用いて友達とコミュニケーションを深める活動を通して、楽しく自然に外国語に慣れ親しむようにする。(外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ)
- ただ単にコミュニケーション活動を行うのではなく、言語や文化についての気付きによってモチベーションを高めたり、慣れ親しむ活動によって得たことがコミュニケーションのツールとして生かされたりしながら、必然性や意図をもってコミュニケーション活動を行うようにする。(積極的なコミュニケーションの態度)

つまり、1つの活動に複数のねらいが混在し、相互に作用し合うのである。それは、「外国語に慣れ親しむ活動の中に言語や文化についての気付きをもつ視点を入れる」というような、1つの活動で表と裏のねらいをもつ「顕在的⇔潜在的（重⇔軽）」の関係であったり、「外国の遊びを通して外国語に慣れ親しむ」というような、1つの活動に同時に2つの等しい意味をもつ「等⇔等」の関係であったり、「外国の文化に触れる活動によってより積極的に外国語に慣れ親しもうとする意欲が高まる」というような、時間的にずれて効果が生じる「動機⇔結果（今⇔後）」の関係であったりする。さらに、それらの活動と活動が相互に作用し合うことで、一単位時間の中や単元全体の中での学びが響き合い、個別に展開されるよりも豊かな成果を生み出していくのである。

(2) 今後の課題

「3つの柱の相互作用」とは、外国語活動の授業デザインの方法論にすぎないのであって、「3つの柱を相互に作用させること」を目的とするのではない。この授業デザインを授業に効果的に取り入れるためには、次のような課題について、今後とも研究に取り組む必要がある。

ア 授業の中で、3つの柱の相互作用を生み出す仕組みとして、「言語や文化についての気付き」を用いるが、ここで子どもに期待する「気付き」が、子どもの発達段階から離れてしまうと、気付けなかったり、気付いても楽しさにつながらなかつたりすることがある。どの子どもも十分に気付くことができ、そこに発見の喜びを感じることができる発達段階や学級の実態に応じた「言語や文化の内容」、「取り上げ方」を明らかにしていく必要がある。

イ 3つの柱の相互作用を生かした授業の展開を一単位時間という視点のみで考えると、その授業は生き生きと展開しているようにとらえることができるが、単元という視座に移すと、授業がちぐはぐになってしまっていることもある。一単位時間という見方だけでなく、単元の中のその授業の意味を明確にし、全体の流れを考慮しながら授業を考えていく必要がある。

ウ 授業の中で取り上げる「言語や文化についての気付き」について、それが子どもの発達段階にあったものであっても、前学年ですでに取り上げてしまった内容であったら、子どもの知的な好奇心を揺さぶる新鮮な気付きは生まれにくい。6学年を通した系統的な気付きを生み出す計画を整備していくことが必要である。

参 考 文 献

- | | |
|--|--------|
| 岡秀夫・金森強編著 「小学校英語教育の進め方—『言葉の教育』として—」成美堂 | (2009) |
| 影浦攻著 「新しい時代の小学校英語指導の原則」明治図書 | (2007) |
| 影浦攻・小学校英語セミナー委員会編 「小学校英語セミナーNO34『言語や文化の体験的な理解を図る工夫』」明治図書 | (2009) |
| 管正隆編著、大牟田市立明治小学校著 「外国語活動評価づくり完全ガイドブック」明治図書 | (2010) |
| 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」東洋館 | (2008) |
| 鹿屋市教育委員会学校教育課 「鹿屋市小学校外国語活動Guidebook 第5版」鹿屋市教育委員会 | (2012) |